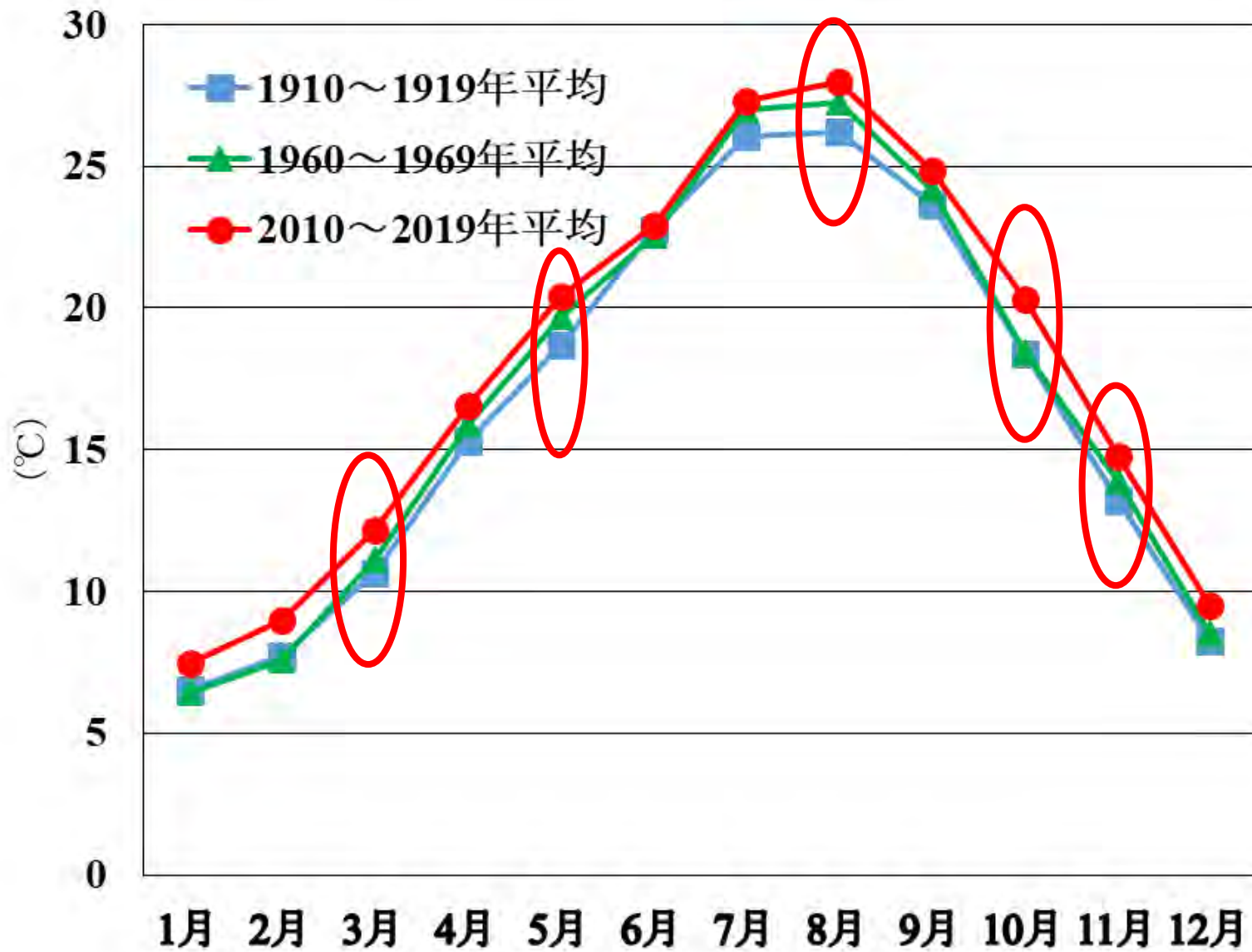


熱帯果樹の栽培・普及に関する展望

南九州大学 環境園芸学部
環境園芸学科 前田 隆昭



この100年間で、年間平均気温が1.3°C上昇

2000年からの今後100年で最大4.8°C上昇すると予想

表 宮崎市の過去100年の気温推移

現状

温帯果樹類の産地（栽培適地）の北上

今後の対応策

代替品目としての熱帯・亜熱帯果樹の導入
の検討

宮崎県・鹿児島県・沖縄県の果樹農業振興計画

宮崎県：マンゴー・ライチ

鹿児島県：マンゴー・パッションフルーツ・アテモヤ・ライチ・パパイヤ

沖縄県：パイナップル・マンゴー・パッションフルーツ・パパイヤ・アセロラ・アテモヤ・ドラゴンフルーツ・スターフルーツ等

日本で栽培可能な熱帯果樹の紹介および 国内での熱帯果樹に関する取り組み状況・事例

1. ピタンガ
2. パッションフルーツ
3. パパイア
4. マカダミア
5. ペカン

コストをかけない露地栽培の可能性を探っていきたい。

ピタンガ(フトモモ科フトモモ属)

ブラジル原産の常緑低木でブラジルのサクランボと呼ばれる。



20世紀に入り、台湾や沖縄に導入されたが、樹脂臭が強く、庭木や垣根としての利用であった。

最近では、えぐみもなく甘い品種に改良され生食用として注目されている。



一時的には、マイナス5°Cにも耐え、千葉県では露地で越冬したと報告されている。



日持ちが良くないのが欠点であるが、生食用・加工用に利用可能

パッションフルーツ (トケイソウ科トケイソウ属)

日本名はクダモノトケイで、ツル性の多年生草本。

ムラサキ種は、自家和合性であるが、キイロ種は自家不和合性であるので、人工受粉が必要。



栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	主要産地名 (収穫量(t))
56.6	533.6	485.9	鹿児島(321)、沖縄(127)、東京(13)

出典：平成29年産特産果樹生産動態等調査

成木は短時間ならマイナス2°Cにも耐え、和歌山県の無霜地帯では露地で越冬したとの報告もある。

三重県では露地で毎年更新している事例もある。



パパイヤ

(パパイヤ科パパイヤ属)

メキシコ南部から中央アメリカの熱帯アメリカ原産の草本であり、3～5年で草丈は7～10 mになる。。

花は雌花、雄花、両性花があり、株には雌株(両性花)、雄株、両性株がある。



栽培面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	主要産地名 (収穫量(t))
49.8	403.1	356.7	鹿児島(276)、沖縄(87)、宮崎(40)

出典：平成29年産特産果樹生産動態等調査

緑色の未熟果実は、野菜用として沖縄などで利用されている。

成木なら4°Cで短時間耐えること可能。ただし、栽培には6°C以上必要



マカダミア

(ヤマモガシ科マカダミア属)

オーストラリア原産で、我が国では常緑小木といわれ、ナッツの王様と呼ばれている。

花序の色は、白色系とピンク系がある。



*Macadamia integrifolia*と*M. tetraphylla*の2系統がある。



M. integrifolia
‘バーディック’



M. tetraphylla
‘バーモント’



M. integrifolia *M. tetraphylla*



各々左側から「バーモント」、「バーディック」、「クーパー」
右側の写真は外側から緑色の果皮、こげ茶色の殻皮、白い仁

品種によるがマイナス4°Cにも耐える。

開花期に降雨が続くとほとんど結果しない。

ペカン

(クルミ科ペカン属)

北アメリカ原産で、現在、ペカン属植物は北アメリカ原生の20種と中国原生の2種が知られている。

落葉性の高木で5 m以上になる。





課題

新規品目のため安定した販売ルートの確立

開花期の降雨

加工の検討が必要

宮崎県および本学で栽培している熱帯果樹類





